

爆同第56回定期総会

(日時)5月7日(土)
午後1時30分
(会場)大和市生涯学習センター

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者 大波修二
事務所 大和市桜森3-5-3
フロント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp



厚木基地を取り巻く状況を学んだ爆同平和講座

厚木爆同「在日米軍の実態と厚木基地」 平和講座

米軍を、日本から追い出す「闘い」を

厚木爆同第2回平和講座「在日米軍の実態と厚木基地」を2月21日、大和市生涯学習センターで開催しました。講師に在日米軍基地の実情に迫るウェブサイト「追跡！在日米軍 リムピース」の編集長・頼和太郎氏を招き、約2時間に渡り、米艦載機の岩国移転問題やオスプレイの危険性などについて学びました。以下は講演の要旨です。(文責・爆同情宣部)

厚木の負担軽減は本当か

はじめに岩国基地の説明をします。岩国基地は港と滑走路を持った基地です。海と空と両方統合して運用できる基地というのはなかなかないのです。このような基地

をもう一つ沖縄の辺野古に造ろうとしています。

岩国基地ではF35用の着陸帯が作られています。垂直離着陸ができる飛行機用です。オスプレイも使います。このようなものも厚木にできたら要注意ということ

です。F35が来る可能性もあります。

厚木の艦載機部隊が岩国に移るということでは大きな格納庫が作られています。この費用は、岩国飛行場に関わる空母艦載機の移駐等に関する予算として、10年で五千億円というとても大きい額となっています。実際に何を生活するたため、地域住民にとってはかえってうるさくなったり、事件や事故が増えます。

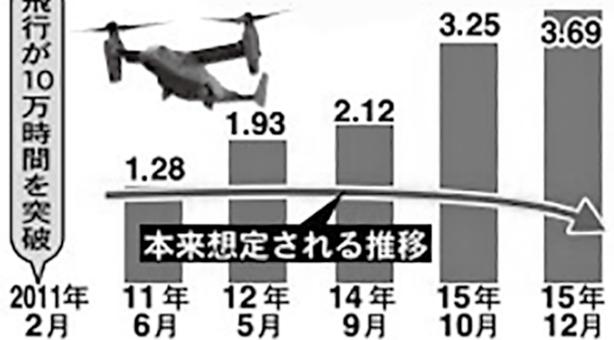
基地の街はどこでもそうですが、軍隊が密になればなるほど事件や事故は増えます。地位協定で米兵はすぐにはパケられない治外法権があるからです。

厚木の格納庫は、艦載機が岩国に移った後は必要ないわけですが、米軍は返そうとしません。移転が本当に負担軽減になるかどうかはこの格納庫を返すか返さないかが一つのバロメーターとなります。

もう一つは大島沖に広がる米軍の訓練空域を返すのかということ。実際に一番大事なのは、訓練空域の話なのです。日本中、米軍と自衛隊の訓練空域となつていきます。米軍が岩国に移ったから、そちらで訓練空域を広げてくれといつても、それは無理です。です

MV-22オスプレイのクラスA事故率

(10万飛行時間当たり、単位:件)



年々事故率が上昇するオスプレイ (琉球新報より)

から訓練するとき厚木に戻ってくるのです。岩国と厚木の間は艦載機でも30分以上かかります。その往復の時間と燃料を何百回と繰り返すのは、米軍にとっては「迷惑」な話です。日本政府の顔を立てて形式的には岩国に移駐しても、厚木を使い続けたいのが米軍の本音です。

事故率上がるオスプレイ

艦載機は岩国に移すと言っていますがヘリコプターは残ります。厚木のヘリの半分は駆逐艦の艦載ヘリですから、横須賀に船があればこちらに残るでしょう。オスプレイが艦上輸送機C-2Aの代わりに導入されることが本決まりになっています。

そこでオスプレイはヘリなのか飛行機なのか問題になります。C-2Aが岩国に移るのは明言されていますが、オスプレイなら半々くらいで厚木に残る可能性が

あります。それから運用上も必ず厚木にきます。厚木というのはそういう基地なのです。

オスプレイの事故率は年々上がっています(グラフ参照)。普通は飛行時間が増えれば改良も進み、事故率は下がりますが、オスプレイは逆に上がっています。

住宅密集地にある厚木基地は、沖縄の普天間基地に並ぶ危険な基地の双壁と言われます。騒音被害の軽減や住民の安全確保は、米軍機の分散や移転ではなく、米軍が日本から出ていくのが基本です。

◇◇◇◇◇
(質問) 米艦載機をなぜ岩国に移すことにしたのですか。

(回答) それは厚木の皆さんの基地反対運動があったからです。日本政府にしても住宅密集地の中で飛ばすのは危険だということにはよ

くわかっていきます。岩国は沖合に滑走路を移設したから危険は少なく、騒音も小さくなっているはずということですが、実際はそうならず、基地が強化されています。

(質問) 岩国移転は、反対運動を逆手にとって米軍が日本の基地全体をいつでも使えるようにしようという目論見に見えますが。

(回答) 基本的に移転や分散は軍隊の使い勝手がよくなるだけで、訓練や基地間の移動により騒音が増えると思います。よく沖縄の負担軽減に反対するのと言われま

安保法制違憲訴訟でついで

2月13日、大和市生涯学習センターで「安保法制違憲訴訟説明会」が開かれました。今後、厚木爆音同盟においても原告募集の取り組みが行われると思いますが、安保違憲訴訟について、私の考え方を述べさせていただきます。

日本には憲法裁判所がないので、法律そのものの違憲性を司法が判断する



安保法制違憲訴訟を説明する福田弁護士

ことはありません。代わりに内閣法制局が法案の事前審査を行います。あくまで内閣の下に置かれた一行政機関ですから、特に安全保障関連では可能な限り行政に都合の良い憲法解釈を示してきた経緯があります。その内閣法制局でさえ「流石にムリ」憲法違反」としてきた集団的自衛権の行使や自衛隊の海外での活動を、安倍政権は法制局長官の首をすげ替えるなどして突破し、国会で強行採決してしまいました。そんな状況の中、司法の判断を求められないという声に応え、昨年全国の弁護士有志数百名でつくる「安保法制違憲訴訟の会」が立ち上がりました。四次訴訟弁護団の福田護副団長も共同代表に名を連ねています。訴訟に持ち込むためには、私たちが具体的な権利侵害を明確に示し、その救済を求めて司法府に訴える形をとる必要があります。

今回の提訴の内容は①自衛隊の出勤の差し止め請求（東京地裁）、②精神的損害の国家賠償請求（神奈川を含む8地裁）です。ハードルが高い訴訟理由には、平和的生存権と人格権の侵害解釈改憲により本来憲法改正に必要な国民投票権の侵害などが根拠に挙げられています。

安保関連法制は今月末迄に施行されます。日本はこれほどの経済発展をしながら戦争をしない国、と多くの国から敬意を表されてきたのは周知の事実です。対して「今や問題をもたらずだけの存在」と評されるのが米国です。今私たちはこれまでにない大きな岐路に立たされています。この国のかたちを決めるのは私たち自身です。

警視庁機動隊100人による排除「ゴボウ抜き」との闘いで一日が始まります。工事車両搬入時の排除——基地内から車両を出すときの「ゴボウ抜き」の闘いが朝、昼、午後と攻防の繰り返しでした。20日は350人、21日は450人の仲間との結集で工事を止めました。しかし、防衛局は22日の金曜日は工事車両の搬入を強化し、仲間の人数が少なくなる機動隊の排除が強化されます。機動隊の排除攻撃に対抗して、ゲート前に大型ブロックを最初は60個から400個、さらに820個と巨大なブロックオブジェを造り、抵抗を行っています。

いっかが「気」になる

二月、文春に収賄疑惑が載せられた神奈川一三区（大和・海老名・綾瀬・座間）選出議員・経済再生担当大臣甘利明が大臣をやめました。記者会見で「秘書が政治献金を私的に流用した。秘書の不始末は私の責任だから辞任する」それが私の美学」とか言いました。

事件は、千葉の道路建設をめぐってS建設会社とUR（独立行政法人・都市再生機構）国交省の関連団体で年間三百余億円の国庫補助を受けているの間でトラブルがあり、URが約二億二千万円の補償金を支払うことになった。

この交渉に甘利氏の秘書が関わり、一三年一月、氏自身が大臣室でS社から五〇万円、一四年二月大和の事務所五〇万円を受け取った。秘書は五百万円と飲食接待等を受けていました。甘利氏は六百万円のうち三百万円は政治資金収支報告書に記載し、残りは秘書が私的に使ったと言うが、S社側は「URとの交渉を有利に進めるために口利きをしてもらった謝礼や経費」だとしています。安倍内閣は一三年に独立行政法人改革の基本方針を閣議決定しています。甘利氏がURに影響力を持つ

た。この交渉に甘利氏の秘書が関わり、一三年一月、氏自身が大臣室でS社から五〇万円、一四年二月大和の事務所五〇万円を受け取った。秘書は五百万円と飲食接待等を受けていました。甘利氏は六百万円のうち三百万円は政治資金収支報告書に記載し、残りは秘書が私的に使ったと言うが、S社側は「URとの交渉を有利に進めるために口利きをしてもらった謝礼や経費」だとしています。安倍内閣は一三年に独立行政法人改革の基本方針を閣議決定しています。甘利氏がURに影響力を持つ

ていたことは否めません。甘利氏は「事務所には良い人も悪い人も来る、選り好みしていたら落選してしまう」とも言いました。彼は過去2回落選（比例復活）しています。甘利氏の父正氏は長い県議活動後、国会議員に当選。米艦載機の岩国移転は正氏の発案だとも言われますが、明氏が基地対策に力を入れたかは寡聞にして知りません。出身地の厚木で、道路建設用地売却に絡んで評判を落としたので、大和（一三区）に鞍替えしたとの見方もあります。さて、次の衆議院選挙で一三区選挙民は彼に対してどのような審判を下すでしょうか。

（情宣部・中坪 清）

支部からこんにちは！

大和 中支部 二階堂 陸治

厚木飛行場の北側に隣接する大和中支部は、南北に伸びる滑走路の延長線上に位置しており、基地周辺の中では最も爆音の激しい地域であり、「厚木基地爆音防止期成同盟」結成の原点になったところでもあります。

平和で静かな空に

爆音同結成以来56年という永きにわたり「平和で静かな空を」を求め、騒音被害軽減のため日夜活動に努めて参りましたが、会員の高齢化に伴い、支部活動が以前に比べ活気が薄れてきたように思います。六百余世帯の会員を抱えながら思うような活動ができず、苦慮しているところ

あります。騒音軽減対策として国による住宅防音工事の指定区域になり、多くの戸建住宅の防音工事が行われなくなりました。しかし、ジェット機は勿論、飛行物体による騒音には全く効果はありません。国は防音工実施を建前に、飛行協定を無視し我がもの顔に爆音をまき散らしています。いつになったら平和で静かな空に戻れるのでしょうか。

沖縄現地報告

辺野古の闘いに参加しよう

沖縄の辺野古新基地建設反対の取り組みに、1月20日から26日までの1週間、私と爆音同盟の座間一ズ3人、バーストップ3人の7人で参加しました。

工事車両の搬入ゲート前での車両搬入阻止の闘いが最大でした。連日朝6時ゲート前に続々と仲間が集まり、暗闇からゲート前に座り込み、6時50分、

私たちは、自らの身体を張った高齢者の皆さんと明るく楽しくたたかいたかにガンバリました。これからの長期な闘いには、現地沖縄の島ぐるみの仲間とともに、本土の仲間が1にも2にも、辺野古の闘いに多数参加することを要請します。

（座間支部・高久 保）